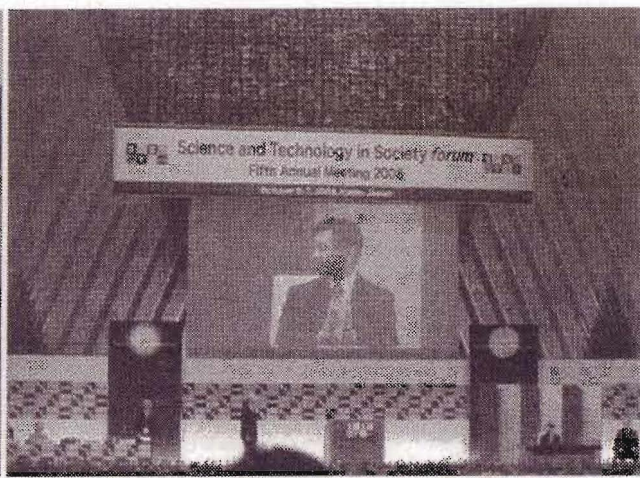


Ⅱ「STSフォーラム」第5年次総会Ⅱ 「自然との調和」等メインテーマに国際フォーラム

「STSフォーラム」第5回年次総会が10月5日から3日間、「自然との調和」と「情報通信技術の人類への影響」をメインテーマに、国立京都国際会館で開催され、世界91の



閉会式でお言葉を述べられる皇太子殿下

国・地域・国際機関から、750名を超える科学者(ノーベル賞受賞者5名を含む)、政策立案者(大臣29名を含む)、ビジネスマン及びオピニオン・リーダー等が一堂に会した初日は、開会式の後、「科学技術の重要課題と発展」「情報通信技術の人類への影響」と題した全体会議と分科会1シリーズが、2日目は「科学技術と健康サービス」「バイオ燃料の食糧生産及び環境への潜在的な影響」と題した全体会議と分科会第2・第3シリーズが、さらに最終日には「分科会総括」と「21世紀の科学技術の役割」と題した全体会議が開かれたほか、閉会式は皇太子殿下がお言葉を述べられた。また、NPO法人STSフォーラムの尾身幸次理事長(衆議院議員)は、閉会式でフォーラム声明を発表して今回の内容を総括した。フォーラム声明の主な内容は次の通り。

気候変動Ⅱ米国、中国及びインドを含むすべての国が参加する、ポスト京都議定書の新しい国際的な枠組を構築する必要がある。エネルギーⅡ世界規模でのエネルギー需要の増大の観点から原子力は極めて重要であり、核物質の保障措置、安全性及び安全保障に関する厳格な条件のもとで原子力発電を増加するべきであるとともに、核融合の開発もまた将来にとって必要不可欠である(以下略)

(写真は全てSTSフォーラムの提供。©stis forum 2008)



講演するマリオ・モリーナ カリフォルニア大学サン・ディエゴ校教授



フォーラム声明を発表する尾身理事長



アネッテ・シャヴァーン 教育研究大臣(ドイツ)



講演するジェフリー・キンドラー ファイザー会長兼CEO(米国)